

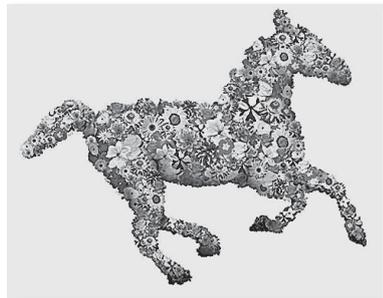
芸術文化ゾーンだより ⑱ ～作品紹介⑥ チェ・ジョンファ～

市で整備を進めている野外芸術文化ゾーンについての話題を紹介しています。

十和田市現代美術館の開館を来月に控え、作家の滞在制作がピークを迎えています。その中から、今月は現代美術館のシンボリック作品「フラワー・ホース」を紹介します。

この作品は、美術館入り口の前に置かれる高さ5.5メートルの「花の馬」です。ご存じのとおり、現代美術館がある官庁街通りは、旧陸軍軍馬補充部に位置し、「駒街道」の愛称で親しまれています。この作品は、「馬のまち」十和田市を象徴するモニュメントであり、また、胴体を飾るFRP製（強化プラスチック）の花々は、官庁街を彩る桜をはじめとする四季折々の花々をイメージさせます。見る者すべての心を和ませてくれるとともに、十和田市の未来をも祝福するかのようです。

この作品を制作するチェ・ジョンファ（崔正化）は1961年、韓国ソウル市生まれ。韓国を代表する現代アーティストの一人で、花やロボット、豚（韓国で縁起がいいものとされている）など、身近で日常的なものを題材



に、カラフルでポップな作品を発表しています。日本での代表作に、2001年の横浜トリエンナーレ（3年ごとに開催される大規模国際展）で発表した「フルーツ・ツリー」、六本木ヒルズさくら坂公園に設置されている「ロボロボロボ」（2003年）などがあります。

「フラワー・ホース」も、他の多くの作品とともに、3月中旬には姿を見せます。お楽しみに。

問い合わせ先 企画調整課 (☎25111内線166)

安心・安全なまちセーフコミュニティを目指して⑤

高齢者の事故予防

高齢者の事故には、家庭内事故（食物などの誤えん、窒息、入浴事故、転倒など）、交通事故、高齢者虐待、自殺などがあります。

当市における平成17年の70歳以上の事故死の状況は、自殺5人、交通事故4人、窒息3人、誤えん3人、火災3人、骨折1人となっています。これらの事故死以外に、死に至らないまでも入院や要介護状態になっているかたも少なくありません。現にセーフコミュニティの先進国スウェーデンでは、事故原因を明確にし、あらゆる団体、市民、行政などと協働で取り組んだ結果、3年後には、事故やケガでの医療機関受診率が30%減少した報告がされています。

高齢者転倒事故について

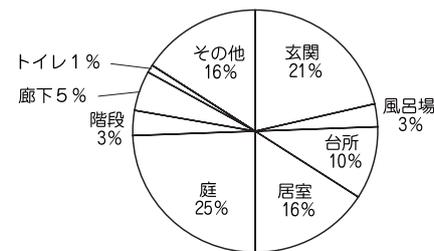
昨年、「セーフコミュニティとわだを実現させる会」による市内の介護予防教室に参加した約1,000人の高齢者のアンケート調査から、1年以内の転倒・けがなどの経験者は43%（約1,000人中約430人）という結果がでています。

思い当たる事故の原因としては自分の足腰の衰え、自分の不注意、障害となる物があつた、手に物を持っていた、視力の衰え、転びやすい格好をしていた、危険を知らせる物がなかったなどとなっています。

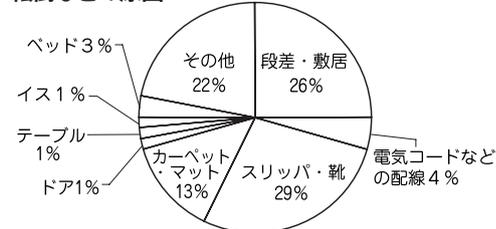
この調査で、事故は自分の身体的な状態（バランスや歩行障害、認知障害、体力の消耗など）のみではなく、家庭内外の環境（段差、履物、食器の位置、敷物、道路状況など）にも危険因子があることが分かりました。

問い合わせ先 健康推進課 (☎251181)

転倒などの起きた場所



転倒などの原因



事故予防のためには、一人ひとりの努力はもちろん重要なことですが、事故やけがを起こす危険のある環境を改善することも重要なことです。

安心・安全なまちづくりは、まず自分の住宅などの環境を見直すことから始め、安全な家に住み、転ばない身体を維持し、元気で長生き「住んで良かった十和田市」を市民ぐるみで目指すことが必要です。